

SHOW HIVE シネマルーム

★★★

奈落のマイホーム

2021年 / 韓国映画
配給: ギャガ / 117分

2022 (令和4) 年 11 月 12 日鑑賞

TOHO シネマズ西宮 OS

Data

2022-125

監督: キム・ジフン

出演: キム・ソンギョン / チャ・スン
ウオン / イ・グァンス / キ
ム・ヘジュン /

👁️👁️ みどころ

住宅火災は恐いし、高層マンションの火災はもっと恐い。船の転覆事故も恐いし、群衆圧死事故も恐い。しかし、念願のマイホームが、ある日、シンクホールの中に落ちていくのは、メチャ恐い!

こりゃ、全員即死! そう思うのが当然だが、本作はそこから始まるサバイバルがストーリーのキモ。それはホームドラマ(?) としてはよくできているが、当局は一体ナニをしているの? ドローンやヘリの活用は?

ソウルの梨泰院で起きた群衆圧死事故直後の公開にもかかわらず、私には本作のバカバカしさが目立つが、なぜ韓国では大ヒット?

■□■ “事故物件” いろいろ! これはひどい! そんなバカな! ■□■

都市問題をライフワークにしてきた弁護士の私としては、“事故物件” をテーマとした「不動産モノ」は必見。近時は所有者不明土地問題が顕在化し、新しい法律も作られたが、そんな時代状況の中、自殺等の事故が発生した“事故物件” 問題も増えている。住宅内に白骨死体が発見されたら、その物件は完全な“事故物件” だ。

しかして、2021年の韓国映画で興行収入2位となった本作の邦題は『奈落のマイホーム』。これは一体ナニ? 一体、どんな事故物件なの? そう思ってチラシを読むと、サラリーマンのドンウォン(キム・ソンギョン) が11年越しでやっと手に入れたマイホーム(マンションの501号室) が、突如、地下500メートルへと落下していくという事故。その原因は、巨大なシンクホールの上にマンションが建っていたためだが、そんなバカな!

■□■ 群衆圧死事故の原因は? シンクホールのチェックは? ■□■

去る10月29日、ソウルの繁華街・梨泰院で起きた「梨泰院群衆圧死事故」の原因は、狭い道路に一気に群衆が密集したため。目下、その原因と責任の所在の追求がなされてい

るが、原因の1つが、建築基準法違反の無断建築によって道路幅が狭くなっていたことにあることは間違いない。どこでも多少の建築法規違反はあるものだが、マンションを建てる地盤の頑丈さは基本中の基本。それなのに、地下に巨大なシンクホールがあることを見逃し、その上にマンションを建築するなんてことが（韓国では）あり得るの？

“シンクホール”によるマンションの陥没事故は、日本では聞いたことがないが、先日観た韓国映画『なまず』（18年）（『シネマ51』218頁）にもシンクホールが登場していた。日本では、なまずの地震予知能力についてさまざまな説があるが、韓国ではなまずが暴れると巨大なシンクホールが現れるの？いやいや、そんなバカな・・・。

そんな議論がまかり通っている韓国なら、しっかり坂和流の『まちづくりの法と政策』を講義してあげなくちゃ・・・。

■□■住宅火災も怖い、シンクホールはもっと怖い！■□■

住宅での火事は怖い。去る11月11日には、東京の高級住宅街である世田谷区成城で、名球会入りしているロッテの村田兆治投手が焼死体で発見される火災があったが、これは一戸建て。しかし、タワーマンションの火災はもっと怖い。それをスクリーン上で表現した韓国映画が『ザ・タワー 超高層ビル大火災』（12年）（『シネマ31』169頁）だ。その原型は、スティーブ・マックイーンとポール・ニューマンが共演した『タワーリング・インフェルノ』（74年）だが、両者とも地上108階、地上138階という超高層マンションでの火災だった。

しかし、住宅火災も怖い、シンクホールはもっと怖い。ある日突然“愛しのマイホーム”がマンション全体として地下500メートルのシンクホールへ落下していく本作の事故はメチャ怖いのでそれに注目！。ほとんどの住人はこのマンションの落下と同時にほぼ全員が即死！そう思ったが、さて・・・？

■□■念願の新居でビー玉は？新居披露の宴は？■□■

日本ではテレビが普及していく中で「ホームドラマ」なるものの人気が高まった。終戦直後には、ラジオの連続ドラマとして「君の名は」が大ヒットしたが、1960～70年代の高度経済成長時代を支えたマイホーム（団地）に住む家族たちは、一家団欒で見るTVのホームドラマが大きな楽しみだった。

本作は冒頭、サラリーマン生活11年を経てやっとソウル市内でマンションを購入した、幸せ絶頂のドンウォンの姿が、一方では家族と共に、他方では会社の部下たちと共に描かれる。その姿は、まさに高度経済成長時代の日本のホームドラマと同じだ。しかし「面白いよ」と言いながら息子が床を転がすビー玉を見ると・・・？

課長代理のキム（イ・グァンス）をはじめ、部下たち全員を部屋に招いた「引越しお祝いパーティー」は、課長たるドンウォンの一世一代の晴れ舞台。そして、飲み過ぎて帰れなくなった部下に対して、「我が家は部屋が3つもあるから泊まっていけ」と言えるのは、一方では代行運賃をケチったためだが、他方ではこれも一種の自慢。しかるに、よりによ

って、そんな日に501号室がマンションもろとも奈落の底に沈んでいくとは！

■□■危機の中でこそ問われる、個人の選択とは？■□■

『タワーリング・インフェルノ』も『ザ・タワー 超高層ビル大火災』も、法的な瑕疵担保責任の問題を抱えつつ、主人公は伝説の消防士だったから、そのハラハラドキドキの活躍がストーリーの核心だった。それに対して、船の沈没事故だった『ポセイドン・アドベンチャー』（72年）では、いかに脱出するかについて個人の自己責任が問われていた。結果的に、船が逆さまになっているという主人公の判断が正解だったわけだが、同作では何がどんなになっているのか皆目分からない状態での手探り脱出の姿が面白かった。

それに対して、本作前半のハイライトは、まさに巨大な“シンクホール”に一棟のマンション全体が落下していく姿だが、奈落の底に落ちたマンションは一体どんな状態になっているの？本作最大の欠点は、その全体像が全くわからないことだ。最終的に大雨が降る中、この巨大な穴が雨水で満たされてしまうという設定だが、それは絶対ナンセンス。大雨だけで、そんなになることはあり得ない。

■□■この救出劇は一体ナニ？そんなバカな！■□■

本作のメインストーリーは、奈落の底へ落下したマンションの住人たちが、ドンウォンの引越しパーティー参加者たちのシンクホールからの脱出劇だが、それを面白く見せるためには「状況設定」をしっかりとさせることが不可欠。ちなみに、『モガディシュ 脱出までの14日間』（21年）は面白かったが、それはその「状況設定」がしっかりしていたためだ（『シネマ51』207頁）。

一棟のマンション全体がシンクホールの中に500メートルも落下すれば、当然柱も壊れてしまうから、空間そのものがゼロに！誰でもそう考えるはずだが、さて本作は？他方、今ドキ、ドローンによる捜索や、ドローンによる水、食料、薬品、通信機器等の補充はできるはずだが、その状況は？さらに、本作では地上からロープ伝いに救急隊員が地下に入ろうとして失敗していたが、ヘリコプターからロープを垂らせばそれぐらいのことは簡単にはできるのでは？

都市住宅問題の専門家として、「これはあまりにひどい」と思ったのは、当局が隣地のマンションも陥落の危険があると指摘しているのに、そのマンション管理組合では、どう対処するべきかという議論を長々とやっていること。その結論が出ないうちに、このマンションもシンクホールに落下していくわけだが、そんな危険があることは当然予測されるのだから、まずは当局がそのマンションの住民からの買い取りを前提として全員を立ち退かせることが不可欠。韓国の法曹界では、そんな常識もないの・・・？本作にはそんな疑問がいっぱいある。そのため、本作はホームドラマとしての出来がイマイチな点を含めて、全体として星3つ。

2022（令和4）年11月22日記